

現代文B 課題問題解説

では解説をはじめます。

よくこんな質問を受けます。「どんな風に読んでいったらいいですか」と。非常にざっくりしたもので、よく聞くとこういうことらしい。本文を通読してから解くのか、設問に目を通してから本文を読むのか、それとも本文を読みつつ出てきた順に解いていったらいいのか。

これに対する回答は、身もふたもない言い方ですが、「自分に合う方法でよろしい」となります。よっぽど不合理でない限り、好きにしてもらうのがよろしいでしょう。

でも、質問してくれる人は、自分に何が合うかわからんから悩んでいるわけだよね。というわけで、参考までに私はこう読んでいるよという紹介をすることにします。

まずは、

タイトルと筆者名を読み(結構ちゃんと)！

そういうと、たいがいは、そういうことじゃなくてさ、という顔をされるのですが、実は重要なんです。

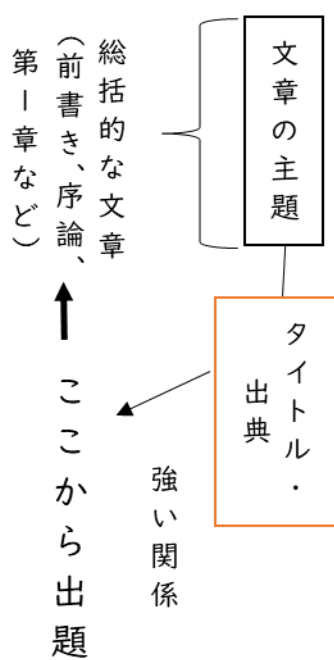
今回の出題は——長田弘「国境を越える言葉」ですね。えらそーに言ったわりには、問題用紙の方にタイトルを書き忘れていて、まことに相すまんと思っ

ているのですが教科書からの引用なんで勘弁してください。で、タイトルを読む

むといいことがあるわけです。
小説ではタイトルなどあてになりませんが、評論問題にはほとんどの場合、
出典というものがあるわけです。書籍とか雑誌に載った文章とかですね。

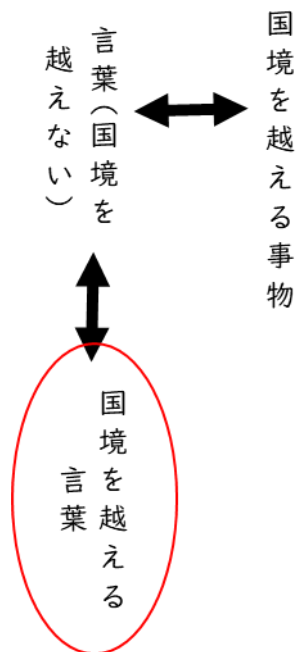
で、大体的場合、その内容、とりわけ「主題」に関連したタイトルがついているわけです。編集者がつけることも多いのですがね。もちろん、文章の内容というのは非常に様々な事からなっているため、「主題」と直接関係のないことも含まれるのですが、そこは出題者の考えというか、一定の制約が入っているわけです。

細かい裏事情は省きますが、問題の出題範囲は、その文章の全体像がうかがえる文章、たとえば前書きや序論など、総論的なところを使うことが多いのです。つまり、こうですね。



当たり前やんけ、という人が多いと思うんだけど、実は盲点になっていることが多い。必ず実践してくださいよ。さらっと読み流すよりも、一度意識して読んでみるわけです。タイトルを読むだけで主題を取り出せるなら、非常にラッキーですよ。

さて、この文章は「国境を越える言葉」なわけですが、これだけでもいくらかヒントになりますよね。



図でいうところの、「国境を越える事物」や「言葉（国境を越えない）」など、文章中にも出てくるわけですが、要は「国境を越える言葉」に対立するものに過ぎないわけです。

長田弘という人についても知っているのと、これまた多少のアドバンテージになりますよ。詩人で、学者ではないのですが、入試問題への採用もまあまあ多い。一つでも読んだ経験があれば、内容をつかむのが非常に楽な気がしますよね。現代文の評論に関する筆者については、便覧を暗記してまで無理に手を広げる必要はないと思うのですが、問題集に出た練習問題の筆者くらいは意識しておくようにしましょう。ちなみに、私が高校生の頃は、村上陽一郎という人の評論がよく問題集に載っていて、実際に入試での出題があったのを記憶しています。一時、脳科学の人の著作が流行ったり、今はAIの内容が流行ったりしています。いずれにせよ、予備知識はないよりはある程度あった方がいいです。

さて、初めにやるべきことはわかりましたか。

タイトルを読んで筆者名を読みました。現代文の問題の場合、続いて頭から読んでいくのが一番効率がいいと思います。

余談ですが、古典の場合、最後のまとめ問題（の選択肢）から読むという人が結構います。実際に効率がいい。特にその問題が「本文の内容として適当でな

いものを一つ選べ」の場合、一つを除けば要約として適当なものが揃っているわけだから、読解がめっちゃくちゃ楽になるわけです。

ただ、評論ではあんまりやらない方がいいかも。古典の文章とは段違いに難解なものだから、頭から読んだ方が得策だと思っています。論理というのは文章の順番のことだからね。

じゃあ、読んでいくわけですが、読解の方法については、五月十一日の「現代文B2（国境を越える言葉解説）」051」を参照のこと。

では、①から。ここは傍線部などはありませんが、問4の設問になっています。通常、第一段落というのは、本文全体に対して特殊な位置づけであることが多いですね。

1 本文全体の議論を先取りしている

2 本文の議論の問題定義になっている

3 本文の議論の内容に背反する一般常識を確認する

などのパターンが考えられます。もちろん他にもありますがね。

ここでは、2 本文の議論の問題定義になっているかなあ、と思います。まあ、それはそんなに問題ではないのですが、一つ覚えておいてほしいのは、

第一段落の設問は後から解け！

ということですよ。たとえば傍線部分冒頭にある場合も、先ほど述べたように、第一段落は本文全体に対して、包括的な関係にあることが多いわけでしょう。だから、そのあたりの理解を要求するつくりになっていることがあるわけです。

ここでは、①の要約というあんまり見ない。パターンの設問だけど、ともかく近視眼的にならないように考えましょう。

モノ人等が国境を越える。

へけれども〽言葉はどうか。

という形だね。解説を読んできた人はわかっていると思うけど、ポイントはへけれども〽だよ。

ともかく選択肢を見てみましょう。こんなのカンタンだ、と思うかもしれないが、結構一筋縄ではいかないことがわかる。

順番に見ていくよ。

①未知である 本文中に「どうだろうか」とあるから、悪くなさそうだね。

②言葉は国境を越えない 文意に合うね。

③言葉は国境を越える 文意に逆行しているから×

④特別な言葉は国境を超えることがある ④以降の内容だね。だから×

⑤情報が国境を越えるのは現代的だ 書いてあるね。

明確に×なのは③、④だろうか。といっても、③ははっきりと反対の内容が書いてあるわけでもないし、④は後の方に書いてある内容だから、少々戸惑ったかもしれないね。

だから、繰り返しになるけど、内容だけで解いてちゃあ間違いが起きうるわけです。論理的な裏付けがなければ解答の根拠は見えないよ。

さあ、①、②、⑤を見てきましょう。ここで重要なのは、何が文意なのか、何が主題なのか、という観点を持つことです。

①は、確かに間違っていないが、この評論は言葉が翻訳されることの未知性について述べた評論ではないね。だから、①の要約としては不適なわけです。

②は、はっきりとは書いてないよね。①で述べられているのは、「言葉はどうだろうか」なわけだから、言いすぎないように見えます。でも、②、③まで読んでみると、①は問題提起の形をとっているけど、言葉は国境を越えないんだ、と述べていることがわかるよね。その意味では、①の内容として適切です。

おいおいちよっとまってくれという人もいるよね。選択肢④は、後からの内容だから×、といったばかりなわけです。どう違うんだ？ となるかもしれませんがね。

ここでポイントは、設問「①の内容を要約したものとして」なんです。段落②、③は、①の内容を受けた一続きの内容です。それに対し、④は、そこまでの文脈を切って、新たな話題になっているわけです。その意味で、扱いは全然違う。

そんなんわからんてという声が聞こえてきそうですが、大きく文意が変わっていることに気づかないといかんです。どうしてこんなことをいうかという、——勘のいい人はもうわかりますね、大事なものは、④冒頭のへけれども〽です。というわけで、詳細は「現代文B（国境を越える言葉解説）0511」を参照。

①〽③は一続き —— 内容的には、「言葉は国境を越えない」

④以降は、別文脈 —— 内容的には、「概念は国境を越える」

です。いつてみれば、①〽③は④以降に否定される内容なわけです。だから、①の要約として、②、③の内容を取り出すのはOKだけど、④以降の内容は×なんです。というわけで、正答は②。

ついでに⑤も見ておこう。この内容は、確かに書いてあるよね。ちなみに、本文の冒頭「今は」も着目しておくべき表現なんです。あ、現代的な事象を取り扱ってるんだ、ということに一発で気づけるからね。

ただ、書いてあるということと、文の主旨であることは違うんですよ。これを理解しておくことは、「文章の主題」をとらえる場合にすごく重要です。

皆さんは、たぶん、こういう不親切な選択肢に慣れていないと思います。義務教育や定期考査では、こういう問題を出題する場合、紛らわしい選択肢を省いておく傾向があるからね。こういうテストでは普通は点を取ってほしいんですよ。でも、入試を前提とすると、世界は全然違う。落とすために問題があるんだから。ついでに言えば、社会に出ても全然違う。

「主題」というのは、その文章で述べられる一番重要な内容ということですよ。①③の主題は、「言葉は国境を越えない」ということになりますね。文章全体でいえば、「概念は国境を越える」ということが主題であって、「言葉は国境を越えない」でも、「情報が故郷を越える」でも、「概念は心の中にしかないもの」を言い表せる「でもないわけですよ。ここらへんをちゃんととらえないといけない。」

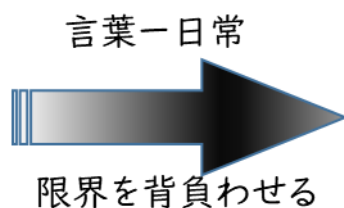
たとえば、社会人が、この文章は言葉の限界について述べた文章です、とプレゼンしたら上司にぶつ飛ばされますよ。書いてあるからといって、重要なのはそこなのか？ ってなりますよね。顧客の要求、上司の指示、取引先の主張、一字一句繰り返すことなんてできないわけです。だから、要はこう言っていたんだという要約の能力は、社会人にとって必須です。

主題とか、主旨を問う問題っていうのは、こういう力を求めているんですよ。

②には空欄補充の問題がありますね。選択肢を見ると、接続詞の選択ですが、これはとりもなおさず、文脈把握の能力を問うているのです。

細かいことは、前述の資料に譲りますが、「言葉は人の」の文と、「お互いの」なればなるほど、それぞれの「言葉です。」の文の関係を考える必要があるんじゃないかな。

それと、こんがらがってしまうので単純化しておく、後の文の主旨は「それぞれの人にとってはつきりとした限界を背負わせるのも、言葉です」ですね（「後が重要！」の法則）。



直感的に言えば、「言葉の結びつきの進行」が、「限界を背負わせる」の遠因になっているようだな、というところです。問題を解くのは後回しにして、なんとなく入りそうな言葉を検討しておくだけでもいいよ。

ここでは解いていくわけだけど、一発で答えるのはちょっときびしいね。こういう時は、選択肢を吟味しましょう。

② なぜならばは全然違うね。この接続詞を使うには、後ろの文が前の文の理由になつていなければいけないのですが、そうとは読み取れない。あと、「なぜならば」は「からだ」を原則的に伴うものだから、形式的にも少々おかしいですね。

④ なかでも違う。「なかでも」とくれば、「言葉が生活の日常に深く結びついている」なかの、個別の事例が取り上げられないとおかしい。

⑤ いずれにせよ、前の文と文脈を切る働きです。だから、この場合は入
りません。それと、いくつかの文脈があつて、それを全部一旦おいて、違う文脈
につながる働きなんです、直前の文脈はどう見ても一つですね。

というわけで、①か③で悩むことになるのかなと思うのですが、どうですか。
正統は①それだけになのですが、じゃあなんで、③そのかわりだとダメな
のか。

これも、「現代文B2(国境を越える言葉解説)「051」を読んでもらいた
いのですが、「そのかわり」だと、「なればなるほど」と「」と同時に「にそぐわ
ないですね。

もう少し丁寧に解説しましょうか。「そのかわり」は「代替」の意味ですね。
文脈に当てはめると、

「言葉は日常に結びついている」

→そのかわり→

「言葉は限界を背負わせる」

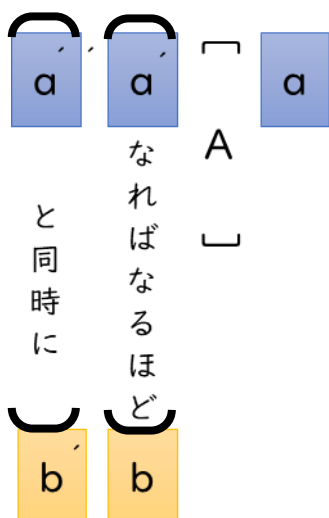
一見悪くないですね。でも、もうちょっとと見てみると、この文章はこうな
んですね。

「言葉は日常に結びついている」

「A」

「言葉が(結びつける)なればなるほど」「言葉は限界を背負わせる」

というわけで、「A」の前後で同じことを言っていることに気づきますね。
つまりこうであるよー！



というわけで、「A」は、「なればなるほど」ならびに「と同時に」と、機能
的にだいたい同等でないといけないんですね。だから、解答は①それだけに
なります。

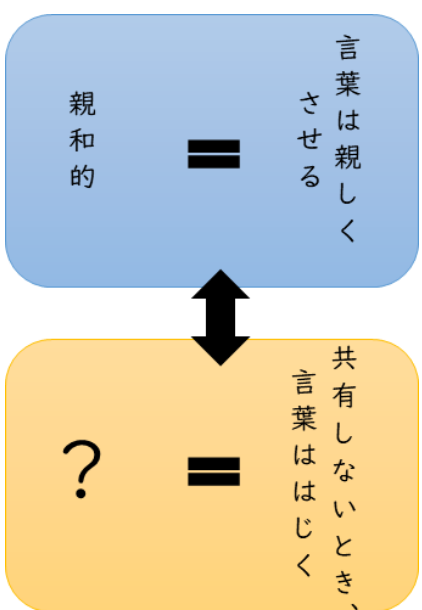
だいたいわかったでしょうか。慣れていない人は面食らいますね。それは、言葉
の意味を丁寧に読み込んで、文意を吟味し、解答を考えるという手順を踏ん
でいる人が多いからだと思います。そして、それが正攻法であることは疑いあ
りません。

ただ、実はそれだけではまずいわけです。これだと、読めばわかるといってい
るのに等しいでしょう。しかし、それでは対応できないという問題もたくさ
んあるわけです。読んでわかるなら、現代文が苦手な人はもっと少ないはずで
すよね。

しつこいですが、重要なのは、解答の根拠を明確にすることです。それは、論
理的に考えるということですね。内容の把握は人によってずれが出てくるので
すが、論理というものにそれはない。文法や用法、つまり接続詞や助詞、助動
詞、あるいは指示語とかその他の日本語のルール、こういったものを根拠にす
るとずれが生じないわけです。

当面はうまくいかないこともあると思うけれど、論理的な要素から解答の根拠を見出すぞ、という意識だけは持って次に進みましょう。

③には、空欄【X】の補充があります。ここは、「はじく」の言い換えて、かつ、「親和」の反対語であることは明白ですが、どうでしょう。



ここまで言葉の意味を軽視するようなことを言っているように思われているかもしれませんが、そうではありません。強調しているのは、言葉の意味で、読解問題の判断をするのは避けようということです。極端に言えば、「愛」という語が含まれているから、この選択肢が正しいはず、という判断の仕方はダメだよと言っているのです。今、そんな選び方しないよと失笑した人も多いでしょうが、多かれ少なかれ同じようなことが起きているんですよ。センターの問題を振り返って、なんでこれを選んだの？と聞いたら、「キーワードが書いてあったから」などと平気で答える人がいるわけです。キーワードはだいたいの選択肢に書いてあるよね。

いわゆる語彙は全然別の話です。評論文に頻出の語句（自由、社会、友情など）や外来語（グローバル、ア・プリオリなど）、対義語・反対語（利己・利他、夢

・現実など）、類義語（永遠・永久、綿密・細心など）は、知っていれば知っている方がいいのはいまでもありません。対義語などは立派な解答の根拠になりますよ。覚えることにある程度の労力を割く必要はあると思います。

ただ、それはつまり集中して覚えていくことは、これまたあんまりよくありません。効率の問題ですね。これは、漢字についても全く同じことが言えるのですが、そのドリルをやっている暇があったら、たくさん問題を解き、出てきたものを漏れなく覚えていくのがいいと考えています。こんなことをいうと眉をひそめる方もいると思いますが、重要じゃないとは言っていないよ。わざわざ個別にやる暇はないといっているのです。あくまで大学入試についてのことで、就職試験ではよく問われますから、話は別ですよ。

はい、【X】ですが、④排他ですね。①威圧も候補に挙がるかもしれませんが、「はじく」などの文脈に合いませんね。そんなに悩む問題ではありません。

でも、悩む必要はない、というためには、語句の意味や対義語の理解が背景にあるということも分かっていただけでしょうか。精進しましょう。

④は傍線部(a)「もう一つの言葉」がありますね。

これの説明を選択するわけだけど、選択肢を詠み込んでいく前に、漠然とこんな内容かな、ということを描いておくといいですよ。

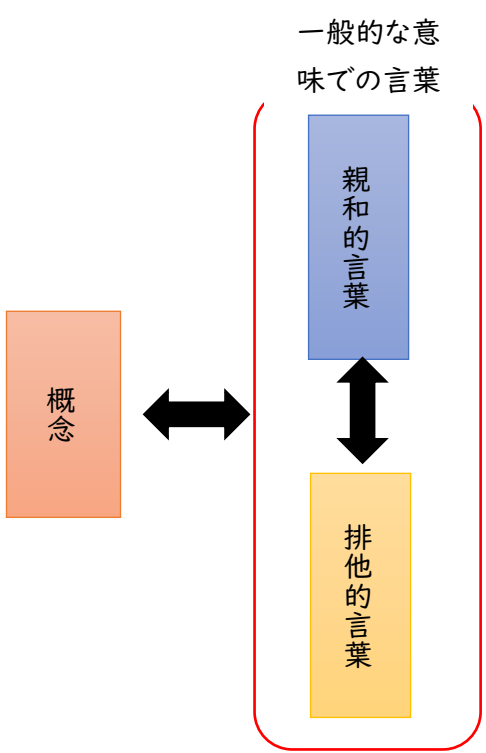
「もう一つ」というのは、別のことから区別しているということですね。ここでは、①③で述べられた、「言葉」から区別されるわけです。

他には、傍線部以降の記述が説明になっています（接続詞なき文章接続は、文脈が変わらない、の法則を参照）。「ないもの」について言うことができる言葉という説明が与えられていますね。要は、「概念」を表す言葉ということですね。

では、選択肢を見てください。

①「日常に結びつき」は概念の説明ではないため×。また、「国境を自在に行き来することができる」という説明も、「自在に」が不適当。

②「お互いを非常に親しく結びつけ」が×。これは、同じ言葉を共有している人々の関係を指していますね。つまり、「親和的言葉」の説明です。たしかに「排他的言葉」とは対立していますが、「一般的な意味での言葉」であることに変わりありませんね。図式化するとこうであると。



余談ですが、選択肢中に強調する語が含まれていると、結構怪しいかも、と考えて構いません。評論文は極端な表現を嫌います。ここでは「非常に」です。ついでに言えば、①の「自在に」もそのたぐい。ここではそんなに露骨ではないのでわかりにくいですが、「必ず」、「絶対に」は非常に怪しい言葉だと心得ま

しょう。自動車免許の試験みたいなことで恐縮ですが、だいたい例外があるんです。例外にも目を向けるというメッセージですよ。

極端ワードは間違いの印

③概ね合っていますね。たしかに「人の生活の日常」は、「親和的言葉」の説明ですが、「概念」はそこから離れるという間違っているとは言えませぬ。○の候補です。

④「言葉の限界を超え」は間違いとは言えませぬ。「お互いを固く結びつけ」はどうでしょう。か。文意としては、「概念は国境を越えて共有される」ということなので、一見合っているようです。しかし、注意してください。概念が「固く結びつける」とは言っているでしょうか。「固く結びつける」のは「親和的言葉」の説明ですよ。概念は、固く結びつくのではなく、その「思い」を共有させることが可能なんだ、と書いてあります。これを「固く結びつける」は表現として不適当、言い過ぎなんですね。

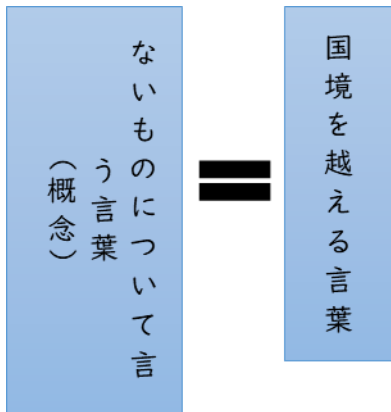
ついでにいうと、ここでは「固く」が極端ワードですね。このくらいでは傷になりません。

⑤「具体的な概念」が×。概念とは具体的ではないものですから、表現として意味不明です。単独で矛盾のある表現が含まれているものは、必ず×ですよ。また、「概念を共有することができる言葉」ではなく、「概念を示す言葉」ですね。些細な違いですが、わざわざ間違わせているのには意味があるわけですよ。

というわけで、正解は③です。

⑤は設問なし。⑥は漢字があるけれど、割愛しますよ。さっきもいったとおり、漢字ドリルとかは今更やらないでね。出てきた漢字で、書けないものがあつたら片っ端から覚えるんだ。漢字だけ取り出してやるぐらいだったら、文学史を覚えた方が絶対に役に立ちますよ。

⑦は(b)「国境を越える」というのは、外国の言葉をいくらか覚えるということとは違う」があつて、これの理由説明の問題ですね。ちよつと先に文脈を確認しておきましょう。

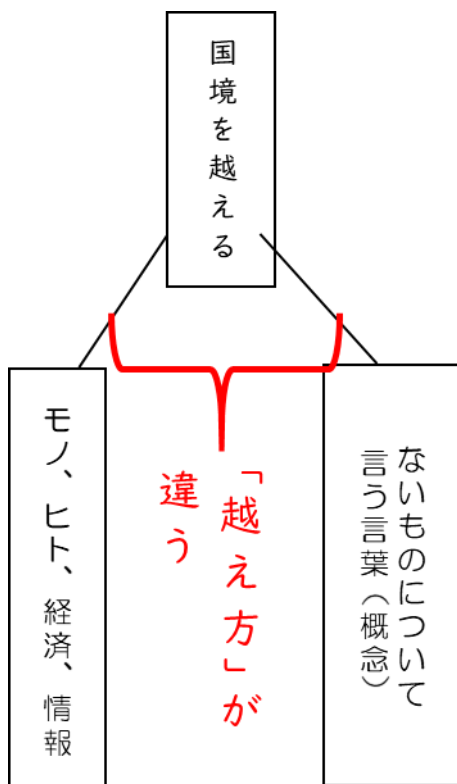


これは大丈夫ですね。問題は、「外国の言葉を覚える」ことが、「国境を越える」とことは違う、ということですね。シンプルに言えば、「違う」ものは違うのだから、それが根拠です。書いてある通りですね。

ここでさつそく選択肢を読んでも構いません。というか、限られた時間で解答しているときには、選択肢を読む前に、自分の解答の精度を高めることに心を砕きすぎると、困ったことになることがあります。ひとつは、時間が足りません。もうひとつは、観点がずれていた時に修正が利かないのです。

それはともかく、ここでは先に、もう少し根拠を明確にしておきましょう。言葉(概念)が国境を越えるとはどういうことなのか、一歩進めて考えておきます。

本文冒頭に書かれていた事物を参考に考えてみましょう。「モノ、人、経済、情報」などのものが「国境を越える」というのは、それぞれのものが国境を越えるということを意味しますね。



では、言葉が「国境を越える」という場合、形式としては次の二つのことが書いてあります。

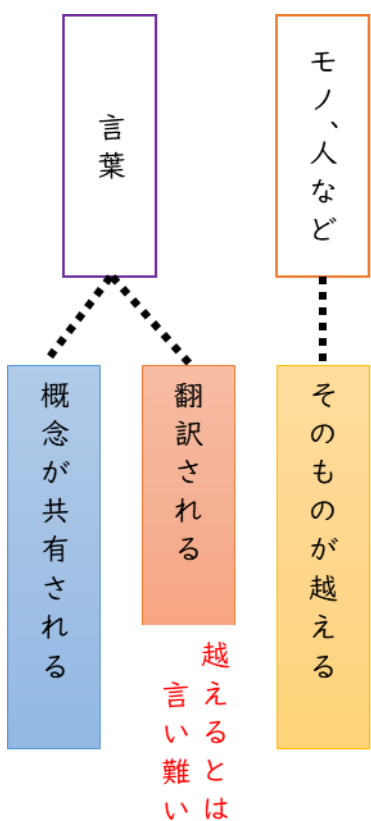
1「外国の言葉をいくらか覚える」

2「それぞれの言葉を通じて、お互いを繋ぐべき大切な概念を共有する」

このうち、1「外国の言葉をいくらか覚える」は、要するに翻訳とかそういうことでしょね。これでは、「国境を越える」ことにならないといっているわけですね。

2「それぞれの言葉を通じて、お互いを繋ぐべき大切な概念を共有する」は、後に述べられるように、「概念」の共有をいうわけです(⑩)。「言葉」が「国境を越える」のは、こういうことをいうんですね。一応まとめておきますか。

国境の越え方



つまり、言葉が国境を越えるのは、概念が共有される場合を指すんですね。これだけの材料があれば、選択肢で悩むことはないと思います。

①「他言語の言葉を知っても」、「概念を共有することにはならない」。説明として不足ありません。まず、これが正解でしょう。

②「他言語の習得は、主に概念を共有する目的で行われる」が×。後半も×。

③「言葉の親和的な側面」というのが×。親和的というのは、排他的と並んで一般的な言葉の側面ですね。ここでは「概念」としての言葉が国境を越えることがポイントですから、それに触れていないのは×ですね。

④「概念を表す語は、ある言語特有」が文脈に逆行しているため×。

⑤「抽象的概念」の共有のために、「自他の言語の構造的な違い」を理解しなければならぬというのが×。

⑧は「B」があります。これは、段落の構造に着目するとすぐにわかりますね。

たしかに「一般論＋逆接」＋主張

のパターンです。たしかに、「たしかに」は書いてありませんね。しかし、これは往々にして省略されるのです。

解説にも書いたのですが、100%誰もが同意するような内容は、まず間違はなく「逆接」をはさんで、筆者の主張部分を導きます。

100%の常識は否定される！

というわけで正解は⑤。これ以外の接続詞もそれぞれ重要なので、ちゃんと把握しておいてください。

⑨～⑫は漢字しか出題されていないので一旦割愛します。

⑬は傍線部(c)「概念は音楽に似ています」ですね。これに関しては、同じ個所を解説でかなり詳しく触れたので、ここでは選択肢を見ていきましょう。ちなみに、設問文で「最も適当なものを」とありますが、二つ選ぶ場合は普通「最も」とは書きません。訂正しておいてください。

では選択肢を見てみましょう。全て、「音楽が A と同様に、概念が B という点。」という形式をとりますね。現代文でも古典でもそうなのですが、選択肢が長い場合、分割して考えるのが、効率面でも精度面でもおすすめです。まずは A だけを見て、違うものをこれ以上考えない、という方法ですね。ちよつとやってみよう。

①「さまざまな楽器の演奏が組み合わせる」本文の主旨にないので×

②「作曲家の意図が明らかになる」演奏↓作曲家の意図の構図が、心の中↓言葉を通じて表現の構図に近似といえるので、○。

③「国境を越えて人々を感動させる」「感動」が疑問だが、「感じ、考え、受け止める(15)」の言い換えとして不可ではない。△とする。

④「演奏されてはじめて音楽となる」直接の記述はないが、概念⇕言葉の構造と近似であるため○。

⑤「演奏方法によって異なった受け止められ方をする」概念と言葉の関係と近似。○。

明らかに変なことを言っているのは①くらいでしょうか。続いて、B を見てみましょう。通常、もう消した①は考えませんが、ここでは参考までに見ておきますよ。

①「複数の言語で共有されて意味が重層的に理解」複数の言語で理解されることに意義を見出しているわけではない。また、重層的ということも記述がないため×。

②「概念が言葉によって意味が確定される」一般論としてはともかく、文意には合わない。筆者は、「心の中にあるもの」の不確定性に関する疑いを持っているわけではないため、×。

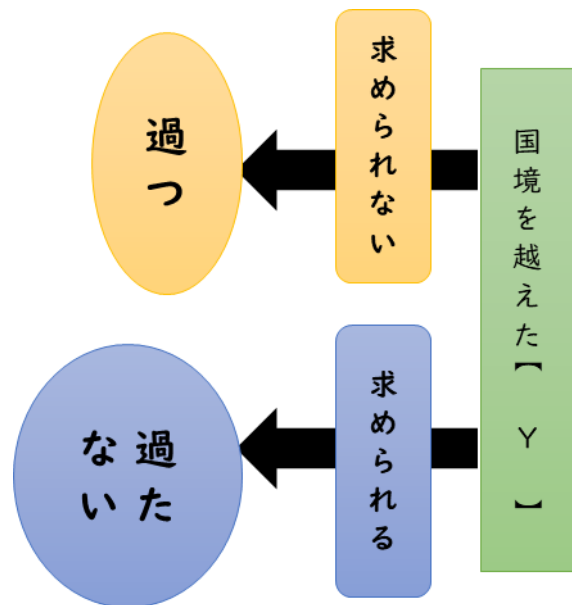
③「どのような言葉で表現しても」本文「誰に向かって、どう演奏するか」は、表現によって概念の受け止められ方が変わると述べているのだと思われるため、×。

④「言葉によって表現されてはじめて共有可能になる」「心の中」にあることと、概念、言葉の関係を示していて適切。○。

⑤「どのような言葉を用いるかによってさまざまな表現になりうる」本文の表現そのまま。○。

というわけで、解答は④、⑤ですね。B の要素から見た方がよかったかもしれませんが、少々難解だったかもしれません、解説の方をよく読んでみてくださいね。

⑬には「Y」もありますね。単語を入れるのではなくて、言葉の組み合わせを考える必要があります。正直、選択肢だけ見てもわかる気がしますが、それはつつしんで、ちゃんと文脈をとらえましょう。



何があつたら、うまくいくというのかを考えましょう。これまでの文脈が適切につかめていた人は、④概念の共有がすんなりとでてくるのではないかと思います。それ以外の選択肢は、少々意味が不明ですしね。

なお、「過つ」という表現はかなり独特で戸惑うのですが、これは、「概念の共有」が国境を越えて行われることを拒否する、すなわち自国や自分の世界に閉じこもってしまうことに対する批判として読めますね。

これで、解説は終わりです。重要なことなので繰り返し述べますが、現代文は論理です。知識を問う割合は他教科、他科目と比較して極端に少ない。解き方、考え方が大部分です。一番伸びる余地があると思いますけどね。

最後にもうひと頑張りしてみましょう。まずは、次の文章を読んでください。「課題文」日本人の「豊かな情感」が、日本の「四季」や類稀なる恵まれた「自然」によって育まれてきたことは間違いないだろう。木洩れ陽（こもれば）の射す京都の「糾（ただす）の

森や、水音も涼しい「哲学の道」を散策すれば、日本人が「山」や「川」、「岩」や「木々」に「自然の精霊」が宿るという「原始信仰」を持つていたことは容易に理解出来る。日本人にとって生活の中心だった「農耕」は自然の影響を大きく受けるために、自然への畏敬の念が発達し、「利己的な考え方」が抑制され、「自然環境」や「周りの人々」と共生するという「利他的な精神構造」が形成されていったのだと思う。また古来より日本は極めて狭い国土（人間が住み暮らせるスペースという意味で）に数多くの人口を抱えているという地理的条件下にあつたため、己一人が良ければそれで良いというような考え方を極度に嫌った。誰かが利己主義的な問題を起こすと「お天道様（おてんとさま）は、お見通しだぞ！」などという表現で戒めたのだ。もちろん、米国から輸入された終戦後の「現代教育」を受けた世代は、「自己主張」においても、「科学的考察力」においても、「個の尊重」や「自然の脅威の克服」を身に着けたと言える。しかし、我々日本人の心の奥底に流れるDNAは、やはり「相手を思いやる」とか「相手を喜ばせる」というような「利他的行動」を上質なものと捉える素地があるのだろう。そこに、「おもてなし」や「一期一会」といった外国人が驚くような「日本の情感」が存在するのだ。

国影議「日本の情感の源泉を求めて」

【問題】本文（「国境を越える言葉」）の観点から、「課題文」を批判せよ。

新傾向問題というものが導入されます。ここで問われる能力も、多少従来のものから変化が生じるのは間違いないでしょう。これまでに公開された数少ないサンプルから判断するに、どうやら、「複数の文章を読む」能力が重視されているように見えます。

というわけで、その力はどうやったら鍛えられるのかと考えるわけです。思いつくのは、文章Aの観点から文章Bを批判するかどうか、というもののなのですが、どうでしょう。どちらにせよ、大学に行ったり、社会に出たりすれば嫌というほどやることです。ちょっとチャレンジしてみてください。

3年組

／50

点	
点	点
B	A
⑤	①

各
3
点

問
2

点				
点	点	点	点	点
㊦	㊥	㊧	㊩	㊨
貧窮	葬	逝	確信	憎悪

各
3
点

問
1

点
④、 ⑤

6 問
点 7

点
①

6 問
点 6

点
③

6 問
点 5

点
②

5 問
点 4

点	
点	点
Y	X
④	④

各
3
点 問
3